

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした 取組状況及び今後の展開について

区は、東京2020大会の開催に係る施策を総合的に推進し、区の更なる活性化につなげるため、平成25年12月に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部（以下、「推進本部」という。）を設置した。平成27年4月からは東京2020大会に向けた施策展開を6つに分類し、取組の検討及び実施を進めている。この度、東京2020大会が終了したことに伴い、開催年である令和3年度を取組結果及び施策展開ごとに設定しているレガシーの達成状況等について下記のとおり報告する。

記

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした取組状況について・・・別紙のとおり

以下の6つの施策展開別を取組結果及びレガシーの達成状況等についてまとめた。

施策展開1	大会の成功に向けた機運醸成とトップアスリートとの連携
施策展開2	スポーツに親しむ環境づくりと健康づくりの推進
施策展開3	N T C周辺におけるにぎわいの創出
施策展開4	訪れた人が安心して快適に回遊できる品格ある都市づくりとユニバーサルデザインの推進
施策展開5	もてなしの心によるまちの魅力創造・発信
施策展開6	オリンピック・パラリンピック教育の推進

2 今後の方向性について

東京2020大会を契機とした区を取組はスポーツ振興の側面だけではなく、地域のにぎわいの創出、魅力の発信、ユニバーサルデザインの推進、障がい者・多文化理解の促進など、多岐にわたる「まちづくり」としての側面を持っている。これらの取組は一過性のものではなく、持続可能な取組として将来に繋げることが重要である。

したがって、区は引き続き障がい者スポーツの普及・啓発、パラリンピアンを含むスポーツ大使の任命及び活用、老若男女問わず参加可能な体験型イベントの実施など様々なスポーツ施策を展開する。また、スポーツを健康増進の手段としてだけではなく、まちづくりの手段として捉えることで、各部署が連携し、「スポーツを通じたまちづくり」を推進する。

3 板橋区スポーツ大使の新規委嘱について

区はスポーツを通じたシティプロモーション活動を行うことにより、区のスポーツ振興及び都市ブランドの向上を図るため平成25年9月に板橋区スポーツ大使制度を発足している。この度、東京2020大会及び北京2022冬季パラリンピックを契機として、以下のとおり新たに大使の委嘱が内定したため、報告する。

なお、今後の活用方針は、区民まつり等の大規模イベントにおける活動や区立小中学校における講演等、現在のスポーツ大使を含め、積極的に活用し、スポーツ振興を図る。

【新規のスポーツ大使内定者】

※敬称略

種別	選手名	競技	区との関係性
オリンピック	上野 優佳 (うえの ゆうか)	フェンシング女子(フルーレ)	区内在住
	江村 美咲 (えむら みさき)	フェンシング女子(サーブル)	区内在住
	加納 虹輝 (かのう こうき)	フェンシング男子(エペ)	区民栄誉賞受賞者
パラリンピック	岩渕 幸洋 (いわぶち こうよう)	卓球男子(立位)	区内施設を練習拠点に活動中
	木村 潤平 (きむら じゅんぺい)	競泳男子(S7、SB6、SM7)、 トライアスロン男子(PTWC)	区内在住
	森 宏明 (もり ひろあき)	ノルディックスキー男子(クロスカントリー・座位)	区出身・区内在住

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした取組状況及びレガシーの達成状況

別紙

オリンピック・パラリンピックを契機とした板橋区の更なる発展のための施策展開

施策展開		施策の方向	項目	令和3（2021）年度の主な事業実績	レガシー	達成状況と今後の方向性	
【施策展開1】	大会の成功に向けた機運醸成とトップアスリートとの連携	○オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成 ○地元アスリートの育成支援 ○事前キャンプの誘致 ○最先端技術の世界に向けた発信	○オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成	<ul style="list-style-type: none"> 本庁舎、NTC周辺等への機運醸成の装飾 小豆沢体育館ライトアップの運用 ダイバーシティフェアの実施 オリパラ給食の実施 JOCオリンピック教室の実施 ギャラリーモール・イベントスクエアにおける東京2020大会機運醸成展示の実施 広報いたばしでの「東京2020大会」PR記事の掲載 東京2020聖火リレートーチの展示 東京2020オリンピック聖火リレーの実施(実施形態変更) 東京2020パラリンピック聖火リレー採火の実施 イタリアバレーボールチーム来日に係るレガシーの常設展示 東京2020大会レガシー記念銘板の制作・設置 東京2020大会記録動画の作成 プロモーションコーナーにおける所蔵資料写真展「オリンピックの記憶」の実施 東京2020大会記念品の巡回展示 東京五輪首頭2020を含むオンライン盆踊りの開催 日本語教室でパラリンピックをテーマに取り入れた授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆東京2020大会を契機とし、区民が様々なスポーツを楽しむ、また、トップアスリートとの交流を通じて、スポーツの価値や素晴らしさを見出しスポーツの振興と普及が進んでいる。 	【達成状況】 JOCや民間企業・団体との連携により区民に対し、トップアスリートとの交流、様々なスポーツ体験の場を提供したことで、スポーツの振興と普及に寄与した。令和2年度から令和3年度にかけても、新型コロナウイルス感染症の影響で一部のイベントが中止となったが、感染症対策を講じての実施や代替事業を実施する等、スポーツの振興と普及を進めた。 【今後の方向性】 スポーツ大使制度やJOCパートナー都市協定締結自治体である区の強みや特色を活かし、一層スポーツの価値や素晴らしさを区民に伝えるとともに、その後の展開として体育施設利用者の増加や区民のスポーツ実施率向上に繋げる。	
				【中止事業】 <ul style="list-style-type: none"> オリンピックデーランの実施 東京2020大会コミュニティライブサイトの実施 東京2020大会観戦チケット活用事業の実施 			
			○区にゆかりのあるアスリート支援と地元プロスポーツチームとの連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 東京エクセレンス：区民デーの実施 東京ヴェルディ：サッカー教室及び板橋区民観戦デーの実施 東京ヴェルディ：学校及び地域とのオンライン交流 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前キャンプやホストタウンで区を訪れた国・地域との交流が実現され、また、プロスポーツチームが地元根付き、積極的なホームタウン活動が展開されスポーツを通じた、人と人とのつながりが生まれ、地域コミュニティの活性化が図られている。 	【達成状況】 イタリアバレーボールチームとは、試合観戦や交流会等、直接的な交流は実施することができなかったが、メッセージ交換や小豆沢体育館を練習会場として提供する等の交流を実施することができた。 プロスポーツチームについては、東京エクセレンスがホームタウンを横浜に移転することになり、新たにマザータウン協定を締結した。(名称も横浜エクセレンスに変更)また、東京ヴェルディは、地域や学校との交流を積極的に行う等、地域に根付いた活動を展開することで、地域コミュニティの活性化に寄与した。 【今後の方向性】 イタリアバレーボールチームより寄贈があった記念物品を小豆沢体育館にて常設展示することで、施設利用者の増加やスポーツ実施率の向上を図り、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化に繋げる。 プロスポーツチームについては、東京ヴェルディとの連携をさらに深め、区民に板橋区がホームタウンであることを幅広く共有し、スポーツの価値や魅力を感じることで地域コミュニティの活性化を図る。	
			○スポーツ先進医療によるアスリートへの支援	【中止事業】 <ul style="list-style-type: none"> オリンピック観戦、メダリスト等との交流などの実施 			
			○イタリアバレーボールチーム受入れに関する取組	<ul style="list-style-type: none"> イタリアバレーボールチーム応援イベント（展示）の実施 イタリアバレーボールチーム受入れ対応 			【中止事業】 <ul style="list-style-type: none"> 板橋区イタリアバレーボールチーム応援ボランティア育成・活動 イタリアバレーボールチーム交流事業の実施
【施策展開2】	スポーツに親しむ環境づくりと健康づくりの推進	○スポーツを通じた健康づくり ○障がい者スポーツの推進 ○スポーツを身近に感じ、健康増進に資する環境の整備	○障がい者スポーツ大会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ポッチャ体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子ども、高齢者、障がい者など多くの区民がスポーツを通して健康づくりを行い、誰もが気軽に楽しめる、ユニバーサルスポーツの環境づくりが進んでいる。 ◆障がい者スポーツ・パラリンピック競技の認知度が向上し、競技を行える環境整備ができています。 	【達成状況】 集客力のあるイベント(板橋Cityマラソンや区民まつり)に併せて障がい者スポーツ・パラリンピック等のユニバーサルスポーツ体験会の実施に加え、障がい者スポーツ大会を実施することで、これらのスポーツの認知度向上に寄与した。また、東板橋体育館の大規模改修工事を実施し、植村冒険館との複合施設「植村記念加賀スポーツセンター」としてリニューアルオープンした。当該施設はユニバーサルデザインを取り入れた誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設となっており、ユニバーサルスポーツの環境づくりを進めた。 【今後の方向性】 JPC、総合型地域スポーツクラブ等の関係団体と連携を行い、様々なイベントに併せて障がい者スポーツ・パラスポーツ等のユニバーサルスポーツ体験会を継続して実施する。また、デフリンピック開催に向け、デフスポーツの普及啓発を推進し、区民認知度の向上を図り、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる環境を構築する。	
			○スポーツ施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 植村記念加賀スポーツセンター体育館部分オープン（9月～）及び植村冒険館（12月～）オープン 			
			○スポーツイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> 板橋CityマラソンONLINEの実施 植村記念加賀スポーツセンターオープニングイベントの実施 			【中止事業】 <ul style="list-style-type: none"> 板橋区・高島平ハーフマラソンの実施 オリンピックデーランの実施（再掲）
			○その他	<ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙防止に関する普及啓発・相談窓口の設置 受動喫煙防止対策関係法令に基づく指導業務の実施 			
【施策展開3】	NTC周辺におけるにぎわいの創出	○NTC周辺におけるイベントの開催 ○NTC周辺における「もてなしの心」の環境づくり	○NTC周辺におけるイベント開催と機運醸成	<ul style="list-style-type: none"> ハイパフォーマンスセンター内専用練習場への東京2020大会に向けた応援メッセージの掲示 本庁舎、NTC周辺等への機運醸成の装飾（再掲） トップアスリート就労支援ナビゲーション「アスナビ」の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ◆NTC周辺でのにぎわいの創出が、他の地域におけるにぎわいの創出に波及している。 	【達成状況】 NTC周辺等への機運醸成の装飾(東京2020大会終了までの期間)やバリアフリー環境の整備を行うことで、NTC周辺のにぎわいの創出、東京2020大会の機運醸成に繋がった。また、町会・大学等と連携してスポーツイベントを開催することで、トップアスリートと子どもとの交流の機会を創出した。 【今後の方向性】 NTC周辺である立地を活かし、町会との連携も踏まえトップアスリートと子どもとの交流の機会を創出し、その繋がりを区内の他地域へも展開していく。	
				【中止事業】 <ul style="list-style-type: none"> 日本代表選手団の壮行応援事業（東京2020大会等）の検討・実施 本蓮沼駅前東京2020大会機運醸成掲示板の活用 			

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした取組状況及びレガシーの達成状況

別紙

オリンピック・パラリンピックを契機とした板橋区の更なる発展のための施策展開

施策展開		施策の方向	項目	令和3（2021）年度の主な事業予定	レガシー	達成状況と今後の方向性
【施策展開4】	訪れた人が安心してユニバーサルに回遊できる品推格進ある都市づくりと	○ソフト・ハード両面にわたるバリアフリー環境の推進	○ユニバーサルデザインの推進	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインによる区施設のユニバーサルデザイン化の推進 冊子による区民・小中学生等への普及啓発 ダイバーシティフェアの実施（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ハード・ソフト両面でのユニバーサルデザイン化を促進し、日本語が分からない外国人をはじめ、高齢者、障がい者を含むすべての来街者が、年齢、性別、国籍や障がいの有無にかかわらず、とまどうことなく快適に過ごせる環境整備が進んでいる。 	<p>【達成状況】 ダイバーシティ&インクルージョンの理念とも通ずるユニバーサルデザインの啓発のため、ダイバーシティフェアを実施し、パネル展示やLGBTセミナーを通して、広く普及啓発に努めた。また区民に対して啓発冊子を配布し、多様な人たちへの理解について、より広く啓発を進めた。</p> <p>【今後の方向性】 「板橋区ユニバーサルデザイン推進計画2025」で定めた取組の指針と施策を着実に実行し、目指すべき将来像「もてなしの心を大切に、すべての人が心地よさを描けるまちいたばし」の実現を図る。</p>
		○駅前周辺や商店街を中心とした快適なまちづくりの推進	○地域の個性を活かした良好な街並み景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> 板橋宿不動産通り地区の景観形成重点地区追加指定による景観計画の変更 	<ul style="list-style-type: none"> ◆駅前周辺や商店街を中心とした快適なまちづくりと、地域の個性を活かした美しい街並みが形成されている。 	<p>【達成状況】 平成29年度から平成30年度にかけて、板橋宿不動産通り商店街や地域住民と協議を重ねた。その結果として、将来めざしたいのまちの景観の方向性として『ちょっと寄ってって板橋宿』を掲げ、『景観まちづくりプラン』を作成した。現在は、板橋宿不動産通り地区の景観形成重点地区指定に向けた手続きを進めている。</p> <p>【今後の方向性】 社会経済情勢の変化や関連計画の改定等、必要に応じて景観計画や景観条例の見直し、拡充を図るとともに、地域特性を生かした良好な景観形成を図るために、景観形成重点地区の拡充を図る。また、景観形成重点地区の取り組みを更に発展させ、地区計画や景観地区等の取り組みへと展開する。</p>
【施策展開5】	もてなしの心によるまちの魅力創造・発信	○「もてなしの心」の環境づくり	○研修による「もてなしの心」の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 新規採用職員への研修による「もてなしの心」意識啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光・文化資源など区の魅力の発信と、国内外の友好交流都市との連携を強化することにより来街者が増えている。 	<p>【達成状況】 令和3年にモンゴル国文部省と「文化・教育交流協定」を締結してから25周年を迎え、本庁舎にて記念イベントを開催した。感染状況に注視しながらの開催となったが、多くの区民が来所し、民族衣装やモンゴル相撲衣装、モンゴル絵本等、普段なかなか触れる機会のない、モンゴル文化に触れることで、友好交流都市としての文化的交流を推進した。</p> <p>【今後の方向性】 情報発信の担い手の育成・支援、観光大使の活用、行政・区民・観光客のSNSプロモーションなどを通じて区の魅力を発信する。新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の観光需要は低迷しているが、アフターコロナを見据え、友好交流都市との連携強化をはじめとする多文化共生に関する取り組みを継続し、区の観光価値を高める。</p>
		○区の強みを活かした誘客促進事業の展開	○観光情報の発信と口コミ情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> 観光アプリの登録情報の充実 シェアサイクルの運用及び社会実験の継続実施 		
		○国内外の都市との戦略的交流	○ボランティアの養成	<ul style="list-style-type: none"> 観光ボランティアの育成 <p>【中止事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 板橋区イタリアバーボールチーム応援ボランティアの育成・活動（再掲） ホームビジット事業の実施 		
		○外国人が訪れやすい環境整備	○国内外交流都市との交流促進	<ul style="list-style-type: none"> モンゴル国協定締結25周年記念イベントの実施 		
		○ボランティアの養成・充実	○板橋の文化の発信と外国の文化にふれる機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> 多文化紹介・国際理解教育事業の実施 板橋区ゆかりのアーティスト公演の実施 文化団体との連携による東京2020大会機運醸成 世界の文化にふれる機会の創出 		
【施策展開6】	オリンピック・パラリンピック教育の推進	○発達段階に応じたオリンピック・パラリンピックの理解促進	○各教科におけるオリンピック・パラリンピック学習等【まなぶ】	<ul style="list-style-type: none"> アスリートの招聘やオリンピック・パラリンピック競技体験等のオリパラ教育を区立全学校園で実施 各学びのエリアでの「めざす子ども像」を踏まえた取組の実施 JOCオリンピック教室の実施（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆区立全学校園でオリンピック・パラリンピック教育を継続的に実施することにより、健康な心と体が育まれ、国際理解が深まり、進んで平和な社会の実現に貢献することができる子どもの育成が図られている。 	<p>【達成状況】 観光客を「もてなし」するために必要な心構えなどの観光意識を醸成し、スキルアップを図るため、勉強会(新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年4月から令和3年10月まで中止)を定期的の実施し、観光ボランティア「もてなしたい」の育成に取り組んだ。</p> <p>【今後の方向性】 アフターコロナを見据え、感染状況を注視しながら、引き続き来街者を「もてなし」するために必要なスキルを持つ人材を育成していく。また、「もてなしの心」を広く区内に波及させるため、区民との協働や大学との連携等を通じ、区全体に「もてなしの心」が行き渡る土壌を醸成する。</p>
		○バランスのとれた体づくりの推進	○ボランティア活動などの社会体験等【わかる】	<ul style="list-style-type: none"> 新中央図書館オープニングイベントの実施 東京2020大会期間中の道路工事等の調整 		
		○トップアスリートとの交流等による機運醸成	○ボランティア活動などの社会体験等【わかる】	<ul style="list-style-type: none"> 区立小中学校を対象とした児童・生徒の東京2020大会競技観戦 		<p>【達成状況】 アスリートの招へいやオリンピック・パラリンピック競技体験等のオリンピック・パラリンピック教育を区立全学校園で実施した。また、中学二年生を対象にオリンピックが講師を務めるオリンピック教室を実施し、生徒に対し「オリंपィズム」や「オリンピックの価値」等の啓発に寄与した。</p> <p>【今後の方向性】 学校における多様性への理解、国際交流、伝統・文化理解、ボランティア等の取り組みを、大会後も長く続く教育活動として発展させていく。また、ボランティアマインドの醸成や障がい者理解の取り組みを家庭や地域へ波及させ、子どもたちだけでなく、家庭や地域を巻き込むことにより、大人たちの理解を高め、共生・共助社会の形成に繋げていく。</p>
		○国内外の文化や人との交流を通じた「もてなしの心」の醸成【英語教育・道徳教育の充実】	○オリンピック、パラリンピアン、アスリートとの交流【ふれあう】			
			○板橋区と関わりのある国との交流等【もてなす】			